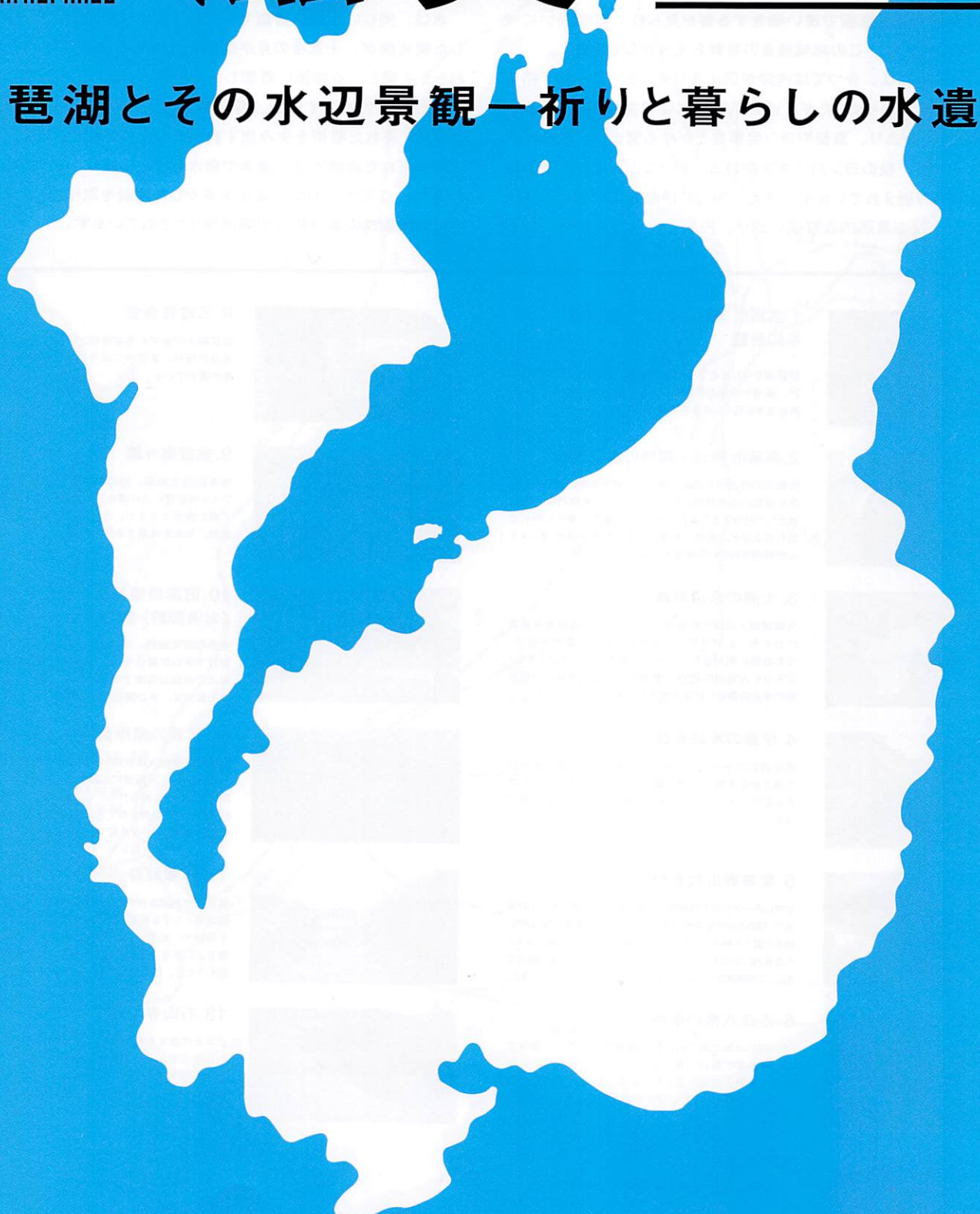


# 日本遺産

## 滋賀 SHIGA

JAPAN HERITAGE

琵琶湖とその水辺景観—祈りと暮らしの水遺産



# 日本遺産 滋賀

古来より穢れを除き、病を癒すものとして祀られてきた水。  
その水を豊かに湛える瑠璃色に輝く琵琶湖の周囲では、「水の浄土」の教主・薬師如来が広く信仰され、琵琶湖をのぞんで建立された寺社は、今日も多くの人々の信仰を集めています。  
また、琵琶湖とともに育まれた暮らしのなかには、日常の生活に山からの水や湧き水を使いながら、水を汚さない「暮らしの文化」が、現在もお伝わっています。  
さらに、湖辺の集落や湖中の島では、米と魚を活用した鮎ずしなどの独自の食文化や、エリなどの伝統的な漁法が育まれてきました。  
古くから芸術や庭園の題材に取り上げられてきた琵琶湖とその水辺は、多くの生き物を育むとともに、近年では、水と人の営みが調和した文化的景観として多くの現代人を惹きつけて止みません。  
ここ滋賀には、日本人の高度な「水の文化」の歴史が集積されているのです。



白鬚神社(高島)

## 日本遺産 (Japan Heritage) とは？

### 1. 日本遺産の趣旨と目的

我が国の文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るためには、その歴史的経緯や、地域の風土に根ざした世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をパッケージ化し、これらの活用を図る中で、情報発信や人材育成・伝承、環境整備などの取組を効果的に進めていく必要があります。

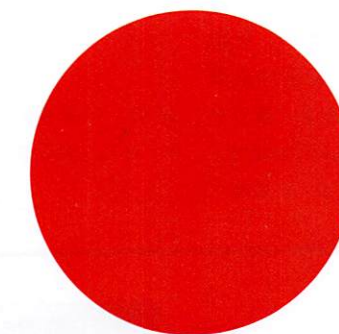
文化庁では、地域の歴史的の魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援します。

### 2. 日本遺産事業の方向性

日本遺産事業の方向性は次の3つに集約されます。

- ① 地域に点在する文化財の把握とストーリーによるパッケージ化
- ② 地域全体としての一体的な整備・活用
- ③ 国内外への積極的かつ戦略的・効果的な発信

(文化庁「日本遺産 (Japan Heritage)」パンフレットより)



JAPAN HERITAGE

日本には世界に誇る「たから」がたくさんあります。文化庁では、この歴史的魅力に溢れる地域の「たから」たちをさらに磨き上げるべく、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」に認定し、国内に、そして世界に発信していく事業が今年度、創設されました。滋賀県と大津市・彦根市・近江八幡市・高島市・東近江市・米原市が申請した「琵琶湖とその水辺景観一祈りと暮らしの水遺産」は平成27年に文化庁に「日本遺産」として認定されました。

### 日本遺産「水の文化」ツーリズム推進協議会

滋賀県・大津市・彦根市・近江八幡市・高島市・東近江市・米原市  
公益社団法人びわこビジターズビューロー・公益財団法人滋賀県文化財保護協会

[問い合わせ先]

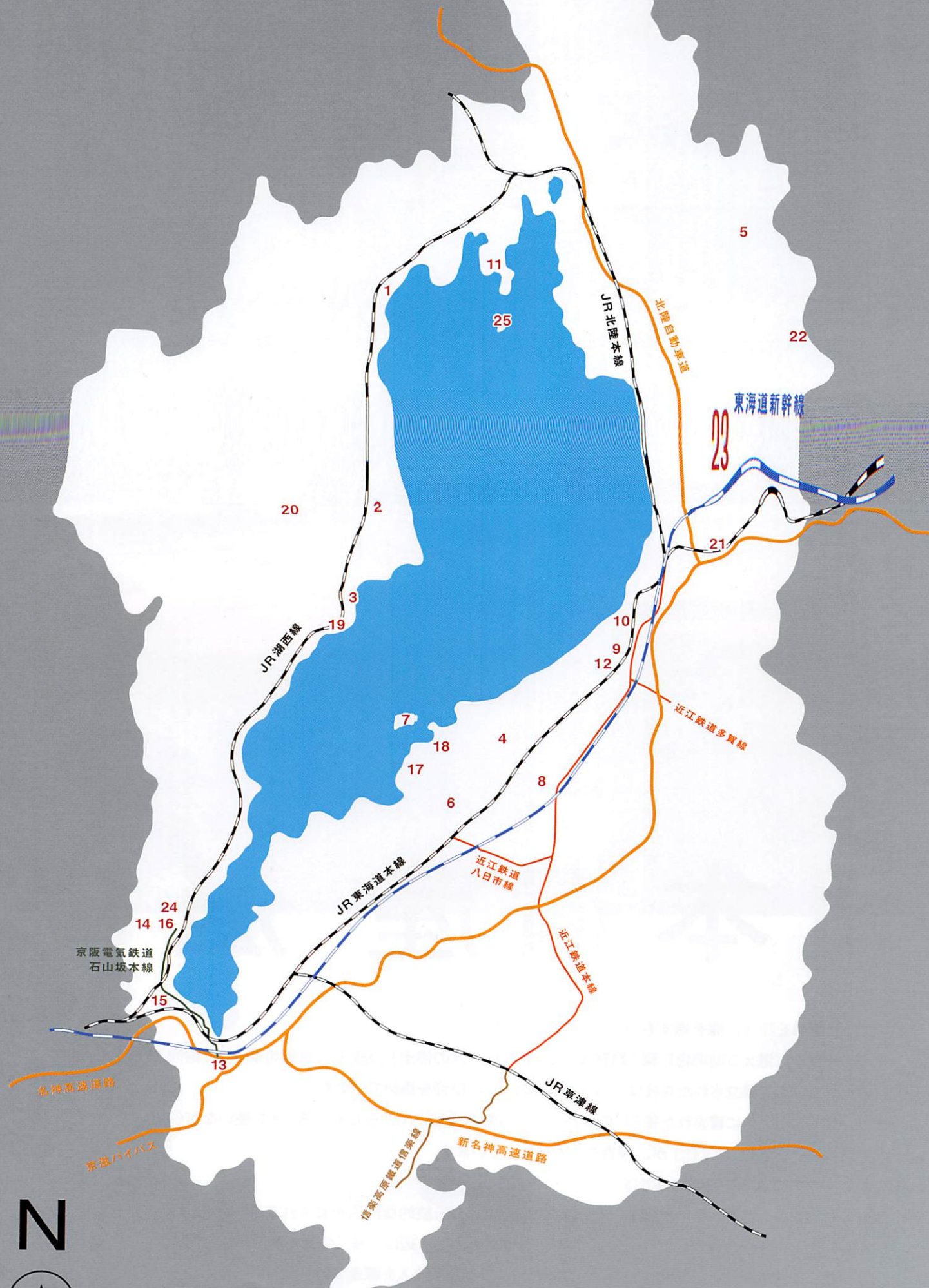
日本遺産「水の文化」ツーリズム推進協議会事務局 (滋賀県商工観光労働部観光交流局内)  
TEL: 077-528-3741 / FAX: 077-521-5030



文化庁

日本遺産魅力発信推進事業

# 構成文化財位置図



# 水と暮らしの文化

水は、人々の暮らしに巧みに利用されています。琵琶湖の西部にある高島市では、遠く離れた山麓から湧き出る水を、竹筒でつなぎ、要所・要所にサイフォンの原理を利用した溜め枧をつくり、各家に配分する古式水道が江戸時代に作られ、現在も多くの労力を費やして維持し利用されています。また、平地では、自噴する湧き水を「カバタ」とよばれる特徴的な洗い場（台所）を使って、飲み水用、炊事用、洗濯用に使い分け、最後は鯉を飼って残飯を処理させるという謙虚で豊かな水利用の知恵をみることができます。さらに、琵琶湖の西岸の集落では、琵琶湖の風波から集落を守るために築かれた石垣や、琵琶湖の中に設置された橋板で洗い物をする姿が見られ、街道沿いに残る建造物群とともに、この地域独自の景観を生み出しています。

琵琶湖の周りには、かつては内湖が沢山ありました。多くが干拓事業などで農地になりましたが、近江八幡市には現在残された最大の内湖「西の湖」があり、漁業やヨシ産業などが今も営まれ、生物と人が共生する中で、秋のヨシ刈りや早春のヨシ焼きなどにより景観の維持と再生が繰り返されています。また、近くの伊庭内湖に接する伊庭集落では、水路が集落内を縦横に巡り、内湖での漁労や水田への往

復に舟が日常的に利用されていた時代を髣髴とさせます。各家には水路で水仕事をするために設けられた階段である「カワト」が多く残されています。奥琵琶の急峻な湖岸地形に形成された独自の集落構造を示す菅浦では、中世の「惣」に遡る強固な共同体によって維持されてきた水辺の暮らしが今も息づいています。

また、琵琶湖や周辺の内湖に囲まれた環境により、城の堀や内湖が水上交通や城下町などへの物資の運搬に活用されていました。彦根城とその周辺には堀に船着場などの遺構が残されるなど、景観は現在にも引き継がれており、市民のくらしの景観の一部となっています。

水は、美しい水辺の景観で人々を癒すだけでなく、石山寺に参詣した紫式部が、十五夜の月が琵琶湖に映える姿を見て「もののあわれ」を主題とする物語に着想したと伝わるように、琵琶湖と水を持つ神秘的な力を現す景観、芸術的な空間の景観、心像を現す景観として、優れた芸術を生み出す材料にもなりました。彦根市の湖岸に形作られた庭園では、湧水や湖水を巧みに操り、小島の岩間からの滝の仕立てや、湖面の変化を活かした州浜を取り込み、石組みと水とで抽象性の高い芸術空間が作りだされています。



1. 高島市 海津・西浜・知内の水辺景観

琵琶湖をはじめとする河川や内湖、湖岸の石積や共同井戸、漁港や砂浜の周辺など、古くから続いた「水」と共に生きる暮らしが今も息づいている。



2. 高島市 針江・霜降の水辺景観

安曇川の伏流水と比良山系からの地下水を起源とする湧水が集落の各所自噴し見られる。これらを飲料水、生活水として利用するための「カバタ」が現在も暮らしの中で使われるなど、生活に密着したエコな水循環利用システムが形成されている集落を見ることが出来る。



3. 大溝の水辺景観

大溝城跡と旧城下町地域は、分部氏による町並み整備が行われ、山や井戸から取水する古式水道や水路は、今も住民に利用されている。内湖の乙女ヶ池は「水城」であった大溝城の往時の景観を今に伝えており、湖や池の水との暮らしが長年営まれてきた。



4. 伊庭の水辺景観

集落内に川からひいた水が張り巡らされ、豊かな水量と清らかな水質が内湖と繋がり、人々の生活を今も支えており、人々の生活が水とともにあったことも実感できる。



5. 東草野山村景観

伊吹山から流れ出て琵琶湖を育む姉川の源流にある山村集落で、関西屈指の豪雪地である。流れ下る水を葉葉で受け止め、湖の水重さを利用して米を杵で搗く唐臼小屋や、山麓の湧水から集落内に引き込んだ。水路にイケやマスを設けた水利施設などに、この地域ならではの伝統的な水利用を見ることが出来る。



6. 近江八幡の水郷

琵琶湖の内湖で培われた和の情緒豊かな景観。漁業やヨシ産業等、周辺に暮らす人々との共生の中で、景観の維持と再生が繰り返されている。重要文化的景観第1号。ラムサール条約による保護湿地。



7. 沖島

琵琶湖最大の島。淡水湖中の島で今も漁業で生業をして



8. 五箇荘金堂

近江商人の本宅と農家住宅が一体となった歴史的な街並みが残り、集落内には今もカワトを設けた美しい水路が流れている。



9. 玄宮楽々園

池泉回遊式庭園。池は城下町の湧水を外堀からサイフォンの原理により導水し、小島の岩間から水を落として滝に仕立てるなど、水を巧みに取り入れた芸術的な景観。日本を代表する大名庭園。



10. 旧彦根藩松原下屋敷（お浜御殿）庭園

池泉回遊式庭園。池の水は、琵琶湖の水位と連動して波打ちぎわが変化する汐入方式。淡水を利用した汐入形式の庭園は日本で唯一である。州浜と築山で構成された景観は、水と調和した精神を示す。



11. 菅浦の湖岸集落

奥琵琶の急峻な湖岸地形に形成された独自の集落構造を示す菅浦は、万葉集にも詠まれた。古くから湖上交通の重要な港として知られる。中世の「惣」に遡る強固な共同組織によって維持されてきた湖岸集落からは、古くから続く水辺の暮らしが今も息づいている。



12. 彦根城跡

琵琶湖や内湖から引かれた城の堀は、城下町への物資の輸送路としても利用された。その遺跡は、堀沿いの船着き場跡や、船町という地名、船頭や漕ぎ手（かこ）の屋敷などに見ることが出来る。今日でも屋形船が観光客で賑わうなど、堀は市民の憩いの景観の一部となっている。



13. 石山寺

日本を代表する古典文学「源氏物語」は、石山寺に参詣した紫式部が十五夜の月が琵琶湖に映える姿を見て「もののあわれ」を主題とする物語に着想したと伝わる。琵琶湖と水を持つ神秘的な力を現す景観等として、水とくらしの文化の一つの形として人々の中で息づいている。

# 水と祈りの文化

人々は、水の恵みに感謝の念を抱き、水の清らかさに精気が宿ると信じ、洪水や日照りをおそれ、水を神と敬い祭事を行って来ました。

米原市では、清らかな水の湧き出る醒井宿に、ヤマトタケルが毒矢で負傷した熱を醒ましたとの伝説をもつ「居醒泉」(いざめのいずみ)があります。また、干ばつに弱い扇状地一帯では雨乞いの太鼓踊りが今も行われています。高島市では、材木を安曇川に流し京都に運んだ筏乗り達を川の魔物から守るシコブチ神社が川沿いに点々と建てられています。

大津市にある比叡山延暦寺は、平安初期に最澄が開きましたが、その本尊は、仏教世界の東方にあつて瑠璃色に輝く「水の浄土」(東方浄土)の教主である薬師如来とされました。比叡山から東方を見ると、眼下に瑠璃色に輝く広大な琵琶湖の全体が望まれ、人々は「近江の湖は海ならず、天台薬師の池ぞかし」(梁塵秘抄)と歌い、仏の理想郷と讃えました。そして「水の浄土」を取り巻いて、薬師如来像や観音菩薩像などを奉る天台寺院や神仏習合した神社が数多く建立され、今も病や禍からの救済を求める多くの人々の崇敬を集めています。

霊峰・比叡山の山麓には、天台三総本山(比叡山延暦寺・三井寺・

西教寺)や、全国三千社の末社をもつ山王総本宮などが鎮座し、歴代の天皇の産湯に供したと伝わる霊泉が祀られ、神輿が湖上に繰り出す祭祀が今に引き継がれています。また、高島市や近江八幡市、大津市の琵琶湖に面した山地に造営された社寺では、湖中に建つ朱の大鳥居や、湖岸に張り出す竿先から水に飛び込む荒行など、水と祈りが結びついた独自の景観や行いを見ることが出来ます。

水神として浅井姫命を祀る竹生島は、観音と弁財天信仰の島として広く信仰を集めており、琵琶湖に浮かぶパワースポットの島として内外に知られ多くの人々が訪れています。



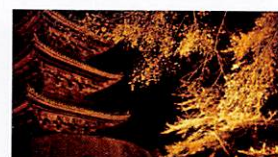
## 14. 比叡山延暦寺

和の祈りを映す琵琶湖。水の恵みあふれるこの世の楽園、理想郷と讃えて「天台薬師の池」に見立て、最澄は比叡山に延暦寺を建立した。根本薬師は国宝延暦寺根本中堂の内陣厨子に秘仏として安置され、不滅の法灯とともに、最澄の理想と信仰を伝え、「水の浄土・琵琶湖」を見守り続ける。



## 21. 醒井宿

霊仙山の水神と参詣者の仏縁を結んでいたという伝説があり、山の湧水を水源とする地蔵川に沿って形成された中山道の宿場町。江戸時代に醒井宿を通過する大名や役人に人足や馬を提供した施設が今も残り、完全な形で復元されている。



## 15. 園城寺(三井寺)

天智・天武・持統の古代三帝の産湯に用いられたとされる霊泉(開伽井屋・重要文化財)が境内にあり、平安時代前期にこの水を智証大師が天台儀式の法水に用いられたことが、園城寺の別名である三井寺の名の由来となっている。



## 22. 伊吹山西麓地域

伊吹山には水の神が棲まうとされ、古代から崇敬されてきた。ヤマトタケルを撃退した伊吹山の神を大蛇である水の神として祀り、奈良時代以降にはこの神の力を得るために修験者が山中で滝行を行い、各尾根には広大な寺院が造営された。



## 16. 日吉大社

7基の神輿が神社を出て町内を巡り、琵琶湖上へと進み、琵琶湖上では粟津御供と呼ばれる供物がお供えされる神輿渡御。壮大な7基の神輿が琵琶湖を渡る様子は壮大な水のまつりである。



## 23. 朝日豊年太鼓踊

水を司り、幾本もの大河の水源である伊吹山に対し、周辺の村々では現在でも9カ所で雨乞い御礼の太鼓踊りが山に向かって奉納されている。水掛りの悪い扇状地で暮らす人々の水利の源への祈りと感謝の姿が今も引き継がれている。



## 17. 長命寺

湖を見下ろす景勝地に築かれており、中世以来今も秘仏の薬師如来像が祀られ、不動の滝など水の浄土信仰心・祈りを表す地として多くの人々が訪れる。



## 24. 西教寺

天台三総本山の一つに数えられ「水の浄土」信仰をあつめる寺院。重要文化財客殿の山側には、琵琶湖の形を模した池泉がしつらえられており、その信仰が庭園という形で具現され、琵琶湖と祈りが結びついた独自の景観を生み出し、訪れる人々に祈りの姿を伝えている。



## 18. 伊崎寺

琵琶湖の先端に張り出した竿の上から水に飛び込む荒行が有名。水の信仰と深く結びついた寺として、近年、観光地や映画のロケ地として有名になっている。



## 25. 竹生島

戦国時代に豊臣秀吉が寄進した都久夫須麻神社本殿と宝蔵寺唐門や、日本三弁天で知られる。古来より、浅井姫命が鎮座し、水神として崇められ、付近を通る船の安全航行を守る神として地域に根付き、今でも琵琶湖に浮かぶパワースポットの島として、多くの人々が訪れている。



## 19. 白鬚神社

「琵琶湖の湖水が蘆原になるのを七度見た。六万歳もの間、比良に住んでいた」という神を祀る。湖中に建つ大鳥居は、その姿から「近江の殿島」と呼ばれ、琵琶湖の航海を司っている。その情景は、松尾芭蕉や与謝野晶子の詩歌にも詠まれるなど、今でも多くの人々を魅了している。



## 20. シコブチ信仰

市西部には、奈良や京の都に建築用材を伐り出す山が広がっていた。材木を水上輸送する筏乗りは、川の魔物から守ってくれる「シコブチ神」を信仰し、祠や社のほか「シコブチ講」として大切に受け継いできた。その分布は安曇川流域とその源流に限られており、「水」に対する独自の地域信仰である。

# 水と食の文化

人々の暮らしと祈りの姿を育んだ「水」は、地域ならではの独自の生業や食文化も育んできました。

琵琶湖岸や川の河口では、春に接岸したコアユを生きたまま捕獲するため鳥の羽をつけた竿で網に追い込む「オイサデ漁」が風物詩になっています。河口に扇形に簾を張る「ヤナ」や湖岸に矢印型に網を張る「エリ」などの魚の習性を知り尽くした漁法は、独自の景観として琵琶湖の魅力の一つにもなっています。

また、琵琶湖の湖魚は人々の食を支え、伝統的な郷土食が伝承されてきました。琵琶湖の固有種であるイサザやホンモロコ、ビワマスなどを使った伝統料理は今も味わうことができます。「鮒ずし」をはじめとした湖魚のナレズシは、産卵期に大量に川を遡上した魚を1年以上保存する知恵の結晶であり、豊稔を願う祭りや伝統行事にも深く関わっています。

滋賀では、水を巧みに生活に活用するとともに、水を敬い、畏れ、水の浄土に救いと安らぎを求めてきた日本人の「水の文化」が脈々と息づき、今も持続し続けています。

それは、白洲正子、井上靖、司馬遼太郎などを魅了した日本の原風景の一部です。

水と人との関わりが遠くなってしまった現代日本にあつて、「水の国」滋賀は、水との関わりと豊かな心情を回復できる貴重な場所なのです。

## 伝統漁法



オイサデ漁



ヤナ漁



エリ漁

## 伝統的な郷土食(滋賀の食文化財)



湖魚料理



エビ豆



鮒ずし

## 琵琶湖を代表する魚(琵琶湖八珍)



ビワマス



コアユ



ニゴロブナ



ハス



ホンモロコ



イサザ



ウロリ



スジエビ